

函館工業高等専門学校

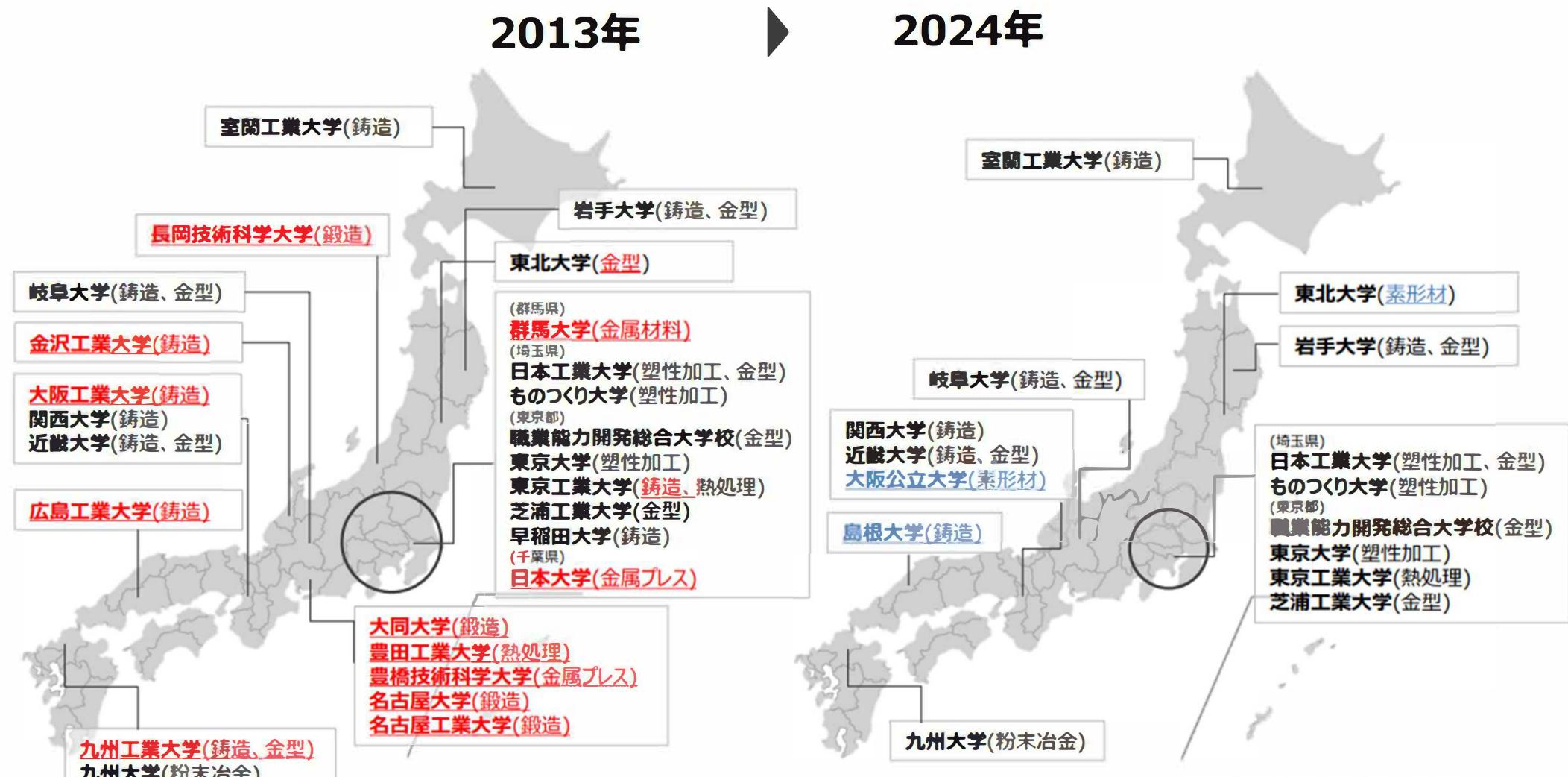
地域未来戦略 地域人材育成の 取り組み

独立行政法人
国立高等専門学校機構
函館工業高等専門学校

校長 清水 一道
令和8年2月2日

素形材に係る教育・研究を行う主な高等教育機関

- 鋳造など素形材関係の学科や講座を維持して特色を出している高等教育機関は、2013年以降、約4割減少。（別途、工学系学部、機械・金属系学科の研究室単位や、地域創生専攻のプログラム単位で活動しているケースも存在）。



(出所) 新素形材産業ビジョン (平成25年3月) 図表2-3-1

(出所) 公開情報をもとに経済産業省調べ
赤字は廃止、青字は新設



この状況下では、
日本のものづくりの継続が厳しい。

これからは、連携の時代です。

束ねることができる組織が
勝ち残る。

オールジャパンで
取り組むことが重要。



進行中の地域未来戦略産業に関するプロジェクト

1. COMPASS5.0事業(洋上風力技術人材育成) 【拠点校・単独事業】

「COMPASS5.0 次世代基盤技術教育のカリキュラム化と特色の伸長・深化」再生可能エネルギー(風力)分野拠点校(令和6年度~)

⇒ 地元函館・北海道の函館渡島桧山ゼロカーボン北海道推進協議会と北海道新産業創造機構、ECOWINDと連携し、地域に根差した風力を函館高専の特色として深化させ、産官と連携して風力発電を含むGX分野で主体的に課題解決できる人材を育成。
R7年度から学科横断型「洋上風力履修プログラム」を開始し、10名が受講中)

学科横断型「洋上風力履修プログラム」の概要



R7.1 履修コース説明会、海産研青山氏による特別講演



2. COMPASS5.0事業(半導体人材育成事業) 【実践校・連携事業】

「高専機構」は、深刻化する半導体人材不足という社会課題に対し、全国51校の国立高専ネットワークを活用した「半導体人財育成工コシステム構想」を本格始動

全国51校の“国立高専だから”実現できる「半導体人財育成工コシステム構想」

- 高専機構は、深刻化する半導体人材不足という社会課題に対し、全国51校の国立高専ネットワークを活用した**「半導体人財育成工コシステム構想」**を本格始動する。
- 本構想は、高専機構が推進してきた半導体人財育成において、九州及び北海道にて**教育パッケージの開発**に取り組むとともに、**教育実践のための環境整備**を進め、全国展開の体制が整いつつあることを契機に、**本格的な実施段階へ移行**するもの。



函館高専での半導体人材育成

高専機構COMPASS5.0半導体事業へ
実践校としての参加

⇒半導体人材育成の強化

- 新規科目を導入 (R6年度)

1~3年 北海道半導体みらい論
4年 半導体概論

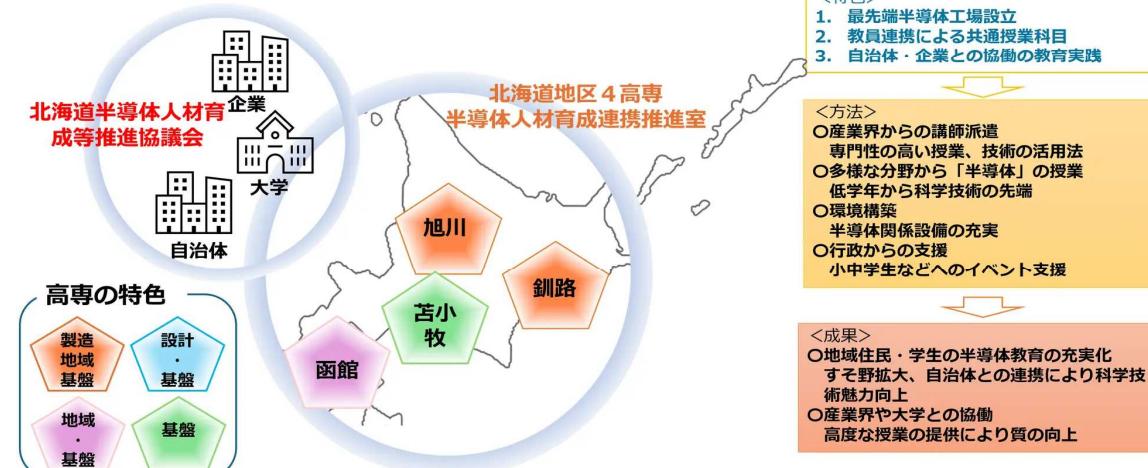
- 実験装置の導入 (実践力の育成)

薄膜スパッタ装置
熱電特性評価装置

道内4高専における半導体人材育成

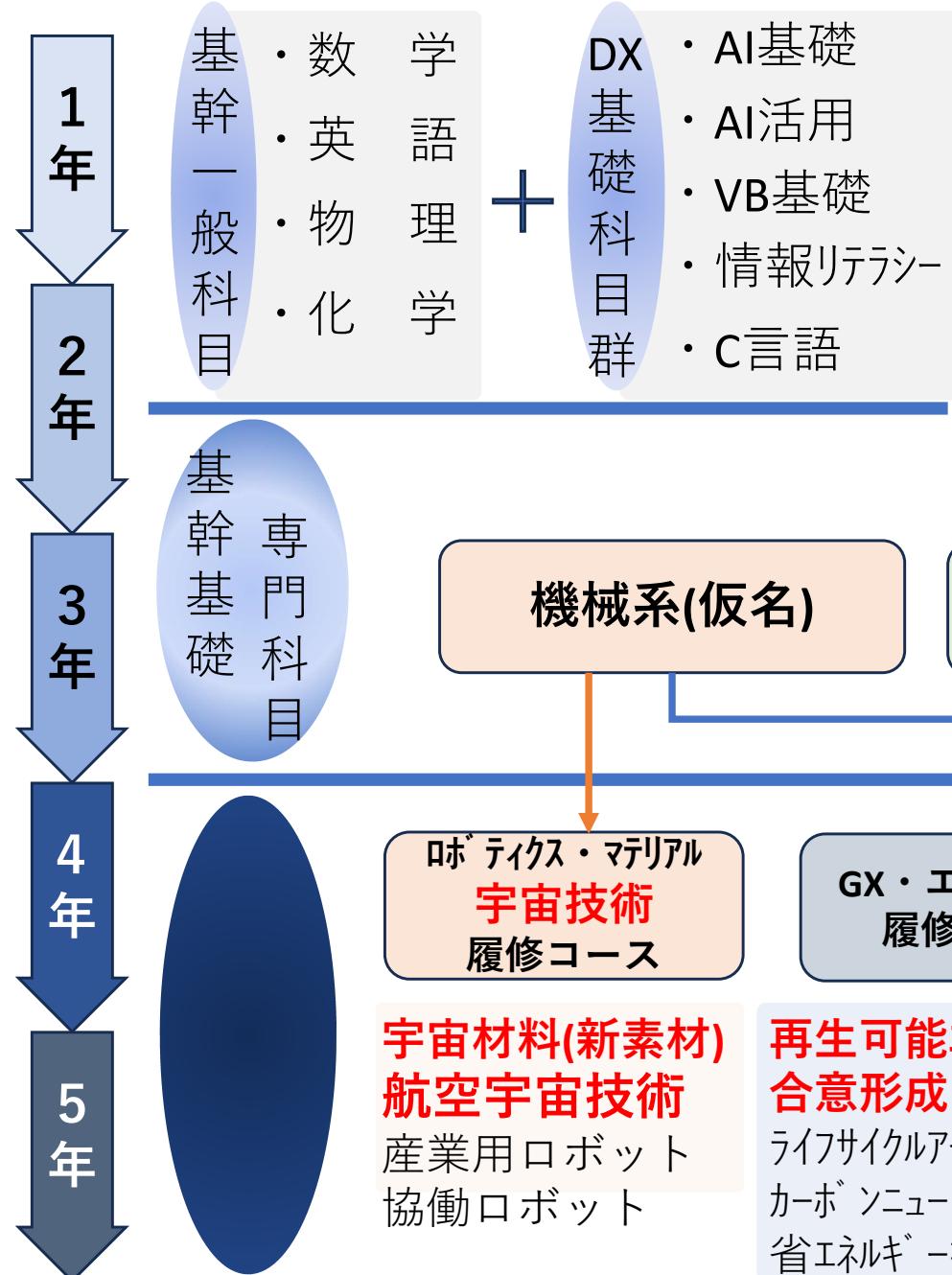
北海道の動き 最先端半導体をきっかけに科学技術人財育成中核機関へ

半導体産業が少ない北海道で「教育・産業・行政」の3つの方法で、高専が中心となり、科学技術の魅力発信、地域を巻き込んだ人材育成、少子化・国際化に対応した地域産業の発展を目指す！





函館高専の地域人材育成将来ビジョン



戦略産業の人材育成に向けた産官学外部連携状況



大樹町との連携包括協定
(宇宙材料関連技術)



松前町との連携包括協定(予定)
(GXエネルギー関連技術)

将来目指す 技術者像

Keywords

【専門】 × 【情報】

【材料】

【エネルギー】

【情報サイエンス】

【宇宙】

